



子ども大学学生新聞

第10号
子ども大学
かわごえ新聞部

仲間とアイデアを交換しよう

三宅先生「21世紀に生きる『賢さ』入門」授業

十一月十六日、尚美学園大学川越キャンパス北オーデトリウムで東京大学大学院の三宅なほみ先生による「二十一世紀に生きる『賢さ』入門」という授業がありました。出席者は四年生一九人、五年生四三人、六年生四四人、保護者五〇人、小さい子二人の計一六九人でした。一時間目は認知科学について勉強しました。この授業では、問題をたくさん



(宮本 愛音記者写す)

解き、似た問題も自然に解けるようにするということ学びました。

まず、「月日」という単語の字の一部をかくすと、それだけでは何と読むかわかりませんが、「生年」という単語を前に入れると、「月日」と読める(「生年」ときたら「月日」というような考え)ということや、曜日を足し算でやりました。曜日の足し算とは、月曜が1、火曜が2というように、曜日を数字におきかえて計算することです。この計算を、もつと楽にできる規則を、みんなで見つけて、三回やっただ中で三回目がとても楽に、速く計算できました。

同じように、アルファベットでも数字におきかえて計算しました。

(浅野璃子記者〓杉下小5年)
賢さの幅を広げる

一時間目のテーマは「話し合うと何がいい?」です。自分の考えに他人の考えが混じると、自分の「規則」をもっと広げて考えるよつになれるなど、とても面白い話がありました。

まず、一〇枚ちよつとの厚手の紙・クリップ・輪ゴム一〇個が配られ、つぎのよつなお話がありました。それは、「ある会場に行ったら、机のものは全部ゆかに置いてくださいと言われました。手元にはいま渡した材料があつたら、ペットボトル・水筒を置くくぐを作ってもいいです」という話です。

「このよつなとき、周りの二三人で、どういうものを作るかなどを、自分の考えと仲間の考えを合わせて考えて作ってみてください」という指示がありました。五分ほど作ったあと、発表がありました。

たとえば、紙を丸めて、それだけで支えるという案や、下に紙をしいて、その上に物を重ねていくという作品もありました。また、床(ゆか)にペットボトルをじかにつけない方がいいんだということ、紙だけを下に置いて、その上にペットボトルを置くという案もありました。

つぎに、人のアイデアを借りる? という疑問から、人のアイデアを借りるのは、とても大事なことや、自分で全部試して見なくても「賢さの幅を広げられる」などのいいことがあるけれど、きちんと誰のどういうアイデアかをはっきりさせることも大事だし、自分の作った案をみんなに公表する場合も、迷惑がかららない、きちんとした案を公表することも大事だとも言っていました。

その後、ほかの人のアイデアをまねして、自分の案を改良してみました。今度の条件は「持ち運びができる」というものです。また五分ほど作り、発表の時間には、持ち手をつけるなど、とても

いい案が出てきました。最後には、「これからは賢さの幅を広げてください」という言葉で終わりました。とても面白い授業でした。(川村弘希記者〓中央小5年)

☆三宅先生インタビュー

三宅なほみ先生の名刺には「東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 構副機構長 大学総合教育研究センター 教授」と書いてありました。

Q なぜこのよつな講義を?

A みんなに賢くなるためにはどうすればよいかを伝えなかつたから。

Q 賢くなるための第一歩は?

A 他の人が自分とはちがつく考え方をもっていることに気づき、ちがう人のアイデアを得て、自分のアイデアを広げることです。

Q なぜこの研究を?

A 自分が賢くなり方を知りたかつたからです。

Q 子どものころは?

A 七歳年上の姉がいて、勉強も運動も何でも一番だつたのに対し、自分は普通だつたの。でも友だちづくりはうまいので、よく話し合いをしていました。そうしたら「他の人と自分の考えはちがう」ということに気が付きました。学校で先生は基本的なことしか教えないけれど、みんなが話し合うと、一人ひとり考えがちがうから、それを自分の考えにとりいれると賢くなるのです。

(斎藤和泉記者〓大塚小6年)

学生の感想

◇宮本慶子さん〓飯能市立加治小5年
Q 今日の授業はどうでしたか。

A 曜日計算や(目の錯覚をためず)緑の線がおもしろかったです。ペッポトルの台づくりも楽しかったです。

(十重田妃菜記者||福原小5年)

◇湯本彩芽さん||牛子小6年「今日は私の好きな数字の話で、聞いていてワクワクしました。特に計算と規則の二つが一度に勉強できて、おもしろかったです」

(小島未来記者||福原小5年)

◇橋村ひなさん||高階西小5年

Q 今日授業はどうでしたか。

A 前半だけで話をまとめて、後半は(ものづくりを)楽しむことができました。教え方がうまいなと思いました。

Q どこがおもしろかったですか。

A 前半の曜日クイズがおもしろかったです。

(土田真由香記者||山田小6年)

◇日野晴菜さん||4年「少ない物でも大きな物が作れると知りました」

(土田莉子記者||山田小4年)

記者の感想

◇十重田妃菜記者「私は月曜日を1、火曜日を2とした曜日計算やアルファベットの計算がおもしろかったです。ペッポトルや水と油を置く台を作るのも友達とできて楽しかったです」

◇土田真由香記者「私はこの授業を受けて、曜日クイズなどがとてもおもしろかったです。えんきんほうや漢字を書くなどで頭も使ったりして、とてもすごかったです。後半の物づくりでは、そうぞう力がつきました」

◇土田莉子記者「曜日の計算をして、はじめはぜんぜんわからなかったけど、月曜日が1というのが、りかいできて、わかりました。楽しかったです」

拡大ホームルーム

合唱団が歌い、部活を紹介

十一月十六日の授業がはじまる前、午後一時からホームルームがありました。いつもは一時半からですが、今回は朝日新聞記者が朝日のびのび賞の審査に来るので、子ども大学の日ごろの活動を知らうために、開始時間を早くし、内容を充実させました。

まず、みんなで校歌を歌いました。次に酒井理事長から話がありました。C UK教育二本柱(はてな学、生き方学、ふるさと学)について説明したあと、この予定として、ミニかわこえ2013、クリスマスパーティー、アフタヌーン・ティーパーティーについての話がありました。



次にアイスブレイクゲームをしました。このゲームは、自己紹介をして、じゃんけんをし

て、いろいろな人と仲をふかめるのが目的です。二〇人以上とじゃんけんをした人が二人いました。つづいて部活の紹介があり、まず少年少女合唱団が歌を歌ってくれました。「もみじ」「リパブリック賛歌」「エーデルワイズ」「翼をください」の四曲でした。学生が指揮し、小林範子先生がピアノ伴奏をし、とてもきれいな歌声でした。少年少女合唱団は一〇人で活動しているそうです。(合唱写真は宮本記者)



最後に新聞部、ワープロ・グループが壇上へ上がって紹介され、ホームルームは終わりました。

(浅野玲子記者||杉下小5年)

「朝日のびのび賞」審査員 高橋記者にインタビュー

「朝日のびのび賞」の審査に来た朝日新聞さいたま総局の高橋諒子記者に突撃インタビューをしました。

Q 授業を見ての感想を聞かせてください。



A みんなな一生懸命に手を挙げて、すごいなと思いました。

Q そもそも朝日のびのび賞とはなんでしょうか。

A ユニークな活動をしている団体を表彰するということですかね。先生の話を聞いてどう思いましたか。

朝日のびのび賞って何?

朝日新聞社とベルマークが主催しています。受賞対象は①小中高校など学校が地域と連携して継続的に行っている活動、②学校外で地域の保護者が子どもたちと継続的に行っている活動など。今回は一五回目で、発表は一月です。

教室での食事は禁止ですよ

最近、私たちの注意がきいたのか、ローラーシユーズ、ゲーム、スマホ、ケータイなどを使う人が減ってきて、ありがたいですが、授業中に食べ物を食べるのも禁止されています。食べるときは、休み時間に教室の外でおねがいします。(新聞部)